

# いのはな便り

肺がん CT 検診認定機構メールマガジン  
第 13 号 (2015 年 4 月号)

## 第 1 回 日本の医療ツーリズム推進シンポジウム 2015

4 月 25 日に全国町村会館で行われた、日本の医療ツーリズム推進シンポジウム実行委員会が主催する「日本医療ツーリズムに高まる中国のニーズ、及び、現状と課題」と題する上記のシンポジウムに参加する機会がありましたので、報告いたします。

当日のプログラムを示します。

開会挨拶 尾尻佳津典 (集中高度先端医療受診倶楽部代表)

講演 王 俊彦氏 (日中高端医療健康倶楽部代表)

講演 坂本麻美氏 (中信国安嘉兆投資咨询有限公司総経理)

講演 阿川弘己氏 (SRB Tech コンサルティング株式会社取締役副社長)

講演 北澤維皓氏 (株式会社 FLYING21 代表)

講演 伊丹純先生 (国立がん研究センター中央病院放射線治療科科長)

講演 南淵明宏先生 (大崎病院東京ハートセンターセンター長)

講演 綾部泰之氏 (西台クリニック画像センター企画部部长)

講演 真野俊樹先生 (多摩大学医療・介護ソリューション研究所所長・教授)

特別講演 手嶋龍一氏 (慶應義塾大学院教授、元 NHK ワシントン支局長)

パネルディスカッション (司会 真野俊樹先生、パネリスト手嶋龍一氏、王 俊彦氏、綾部泰之氏)

閉会挨拶

はじめに、主に中国側からの講演があり、現状が紹介された。現在中国には 2 億人近い、いわゆる富裕層と言われる人々がおおり、現在急速に増加している。これらの人々は自ら元気で活動できることが収入にもつながってくるので、自分自身の健康維持に気を使い、万一病気になった際には最高の医療を受けることを希望している。しかし、中国の医療水準のレベルはばらつきが非常に大きく、医療機器の整備も不十分であり、

最高度の医療を確実に受けることが困難な場合も少なくない。

従って、現在多くの富裕層の人々は病気になった際に、中国国外の医療機関で治療を受けることが多く、受け入れ先を世話する組織も 10 以上存在し、2012 年には約 4000 万人が国外で医療を受けている。その受け入れ先としては、米国が最も多くついでヨーロッパ特に英国、シンガポール、タイなどが続き、最近では韓国も増えている。医療費は米国では中国の 3 倍程度、英国では 3 割増し程度になっている。

また、最近では病気の予防や早期発見への関心も高く、特に日本での PET 検診を希望する人が増えており、日本国内にも PET 検査を含んだ人間ドックと観光を兼ねたいわゆる「メディカルツーリズム」を積極的に受け入れる施設ができています。しかし全国的に見た場合その受け入れ可能人数は極めて少ない現状にあり、信頼できる施設で確実に検査ができるようなシステムが望まれている。

一方、日本側からは、日本の医療の水準に関しての心臓外科、放射線治療、PET 検診について現状の説明や実際に外国人の患者を受け入れた経験などが紹介された。PET 検診の場合、注射をしてから検査までの待ち時間が長い、その間の注意などが十分に伝わらなくて困ること、あるいは不慣れな通訳者が VIP に失礼な言い回しをして怒らせてしまった、など優秀な医療通訳の不在が最大の問題として指摘された。また日本人の受診者の中からも、外国人と一緒に検査を受けることに不快感を示す人もいたとのことであった。

さらに日本では 2020 年の東京オリンピック、パラリンピックに関連して、外国人患者受け入れ環境整備を進める必要があり、医療通訳などが配置された「外国人患者受け入れ医療機関認証制度 (JMIP)」できており、3 病院がすでに認証されている。またメディカル・エクセレンス・ジャパン (MEJ) という組織もできており、新興国の医療の発展そのものについて協力するシステムで、外国人患者の受け入れだけでなく、日本の医療を海外へ輸出するという考えでの活動も行っている、とのことであった。

最後に元 NHK のワシントン支局長であった、手嶋龍一氏が、ジャーナリストの立場から、日本の国民皆保険は世界に類を見ない優れた保険制度で、しかも外国人であっても日本に連続 3 か月以上滞在していれば加入することができる画期的な方法であるが、これを悪用される心配もあり、メディカルツーリズムの普及に関して、批判的な医師会も少なくない。しかし現実には北海道では極東のロシア人富裕層を対象にした PET 検診を熱心に行っている施設も誕生している。今後大変に忙しい富裕層の人々の持っている時間を買うという概念から、検査などの間も待ち時間を利用してビジネスを行うというような検討も行われているなどの紹介もあった。

今回正式な講演の中ではあまり話題にならなかったが、最近の遠隔医療の技術を積極的に導入することで、特に検診の場合、受診者が直接来日しなくても検査データのみを日本に送り診断して結果を返すシステムも検討しても良いのではないかと思われた。この問題について、講演後の懇親会で二三の講演者に質問した感触では、中国側からは忙しい人たちではあるが、家族サービスなども含めて旅行をしながら検査もできるところに魅力を感じている人もいること。また直接医師と面談して結果説明を希望する人も多いので、レポートだけの報告では不満が出るのではないかとの意見も出された。

日本側からはすでに、国内での遠隔画像診断はかなり行われており、一部では日本から海外へ読影を依頼するシステムも動いている。技術的には十分に可能であるが、

いろいろ解決しなくてはならない制度的な問題があるのではないかという意見も聞かれた。

現在ダビンチを使えば、手術でさえ遠隔で行える時代になってきているので、画像診断に関して、検査機器のある場所に必ずしも読影医がいる必要は無くなってきている。また面談もテレビ電話を使えばほぼリアルタイムに行うことが可能になってきているので、国際間での遠隔画像診断。遠隔医療の技術や精度をさらに高め、制度的に活用することにより、人的な面も含めた医療資源の有効活用を図るような努力が今後には必要になると思われる。(文責：金子昌弘)

---

## 関連会議のご案内

---

### 第 41 回肺癌診断会のお知らせ

1. テーマ：マクロの視点とミクロの眼
2. 世話人：黒崎敦子（公益財団法人結核予防会 複十字病院放射線診断科）
3. 日時：平成 27 年 6 月 25 日(木)～27 日(土)
4. 会場：りんどう湖ロイヤルホテル  
〒325-0302 栃木県那須郡那須町高久丙 4449-2
5. 申込方法：下記のウェブサイトからの事前参加登録受付中  
<http://lcd.kenkyuukai.jp/>
6. 問合せ先：① 第 41 回肺癌診断会運営事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-35-3 本郷 UC ビル 4F  
株式会社コンベンションアカデミア内  
TEL:03-5805-5261 E-mail: [LCD41@coac.co.jp](mailto:LCD41@coac.co.jp)  
② 実行委員長 複十字病院放射線技術科 花井耕造  
TEL:042-491-4111 E-mail: [hanaik@fukujuji.org](mailto:hanaik@fukujuji.org)

※第 41 回肺癌診断会への参加は：肺がん CT 検診認定技師更新講習会受講の 5 単位となります。

※内容についてはHPでご確認ください。

---

## 日本CT検診学会 2015年夏季セミナー

第 19 回読影セミナー、第 14 回肺気腫セミナー、第 9 回技術セミナー

当機構の中心母体である日本CT検診学会が主催する夏季セミナーです。  
認定医師、認定技師の更新のための単位も取得できますのでぜひご参加ください。  
また、未入会のかたも是非この際にご入会をお勧めします。

日時：2015年7月25日

会場：主婦会館プラザエフ <http://plaza-f.or.jp/index2/access/>

代表世話人：柿沼龍太郎

詳細については下記HPでご確認ください。

[http://www.jscts.org/index.php?page=seminar\\_index](http://www.jscts.org/index.php?page=seminar_index)

\*\*\*\*\*

### 編集後記：

初夏の気候かと思えば、時ならぬ積雪で2月に逆戻りというような目まぐるしい天候に驚かされておりますが、皆様方の方ではいかがお過ごしでしょうか。

春の学会シーズンで、肺がん検診が話題になったところも多いかと思いますが、今回、海外からの受診希望者の受け入れに関するシンポジウムに参加する機会がありましたので報告しました。参考にさせていただけると幸いです。

新年度になりまして、勤務先が変わった方も多くいらっしゃると思います。当機構ではほとんどの連絡を e-mail で行いますので、連絡先が変わられた場合にはできるだけ迅速に事務局にご連絡をお願いいたします。(文責：金子昌弘)

---

いのはな便り 第13号 2015年4月25日発行

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻 3-6-6 イノハナビル 3階  
有限会社エッセン内 「肺がん CT 検診認定機構事務局」

編集責任者 金子昌弘

TEL：043-226-1298

FAX：043-226-1299

E-mail: [jimdai@ct-kensin-nintei.jp](mailto:jimdai@ct-kensin-nintei.jp)

WEBSITE: <http://www.ct-kensin-nintei.jp/>